

リアルSNS企画 tAmatsubu

～責任の持てる投稿って？～

東京都立南多摩中等教育学校 4年 野口夏葉

実施背景

コロナウイルスの感染症の影響でオンライン学習の機会が増えている。また、本校前期生(中学生に相当)はGIGAスクール端末の導入により全ての生徒がタブレット端末を所持している。こうした背景もあり、インターネットを介してのコミュニケーションはこれまでより手軽かつ身近になった。

この機会に、インターネット上で自身が情報を発信する立場になる時に注意すべきことを全校が再度見直す場を作りたいと思い、企画を始めた。

“tAmatsubu”とは

この企画「tAmatsubu(たまつぶ)」はTwitterのリプライ機能・Instagramのコメント機能・5ちゃんねるなどの掲示板等、特定の投稿に対して他者が匿名で返信する手法で投稿をするといったシステムを模した、現実空間の掲示板のようなものである。

投稿は小さな雨粒型カードを用いて行う。カードに投稿内容を書き込み、ブースに設置されている模造紙に貼ることで投稿が完了する。投稿に対して返信をしたい場合は写真1のように、返信内容を書いたカードを返信したいカードの下につなげて貼る。

この投稿時・返信時には写真1の[1]のようなユーザーネームをカードに記載することを必須とした。このユーザーネームは初回投稿時にくじ引きの要領で「ユーザーネームボックス」から1枚選んで取得する。以降、tAmatsubu終了時までは同一のユーザーネームを使用する。この2点によって投稿者の識別と匿名化を可能にした。

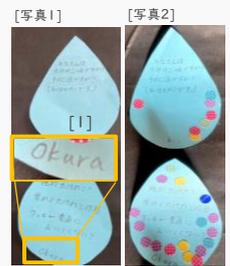
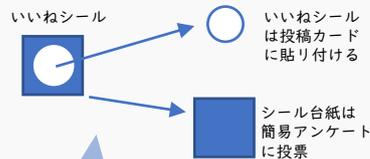
また、「いいね」は写真2のように、ブース内に設置したシールを投稿されたカードに貼ることで付けられるように設計した。投稿に対しての共感や関心を可視化することができる。

狙い

実際のSNSでは、デバイスの前で一人で投稿をする。そのため、投稿はインターネット上に流れて全世界が目にする状態になるが、それを実際に体感することは案外難しい。投稿ブースを人通りの多い場所に置くことで「人に投稿が見られている」という意識を引き出しやすい環境を作った。



【簡易アンケート実施方法】



[写真3] 実施時の書き込みブース前の様子

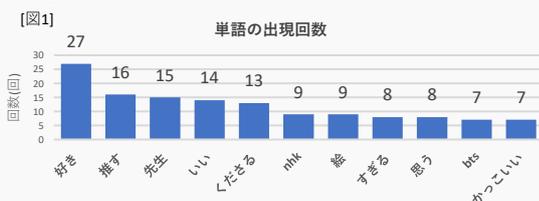
投稿カードの裏にもカード貼り付けのための両面テープが付いている。この両面テープの台紙も同様に投票に使用した[1]。

[1]実施方法については動画内で詳細を説明

AIテキストマイニング結果

図1が全投稿内容をAIテキストマイニング[2][3]を用いて解析した結果である。

今回、単語の出現回数で最大となったものは投稿者の恣意的な要素が大きかった[4]ため外れ値として掲載していない。



出現回数が最大だったのは「好き」だった。続く2位にも「推す」という単語が入っていることから、tAmatsubuが自分の好きなものについて語り合う場として機能したことが伺える。

[2] User Local AIテキストマイニング <https://textmining.userlocal.jp/>
[3] 今回の実際の解析結果の詳細 User Local AIテキストマイニング(入手2022/2/7) <https://textmining.userlocal.jp/results/17vnhYHigUXMah7XVe8z9CiUeip9J2MC>
[4] 投稿内に同じ単語を無数に書き並べるといった投稿が見られ、その投稿内容に結果が大きく左右されたため

簡易アンケート結果

図2・図3は投稿時およびいいねを付けた際に実施した3択の簡易アンケートの結果である。

[アンケート内容]
投稿をした際に「投稿前に内容を何回確認したか」について0回・1回・2回以上の3択で答えてもらった。
いいねをつけた際には「自分がいいねをつけた内容はポジティブであったか」について、ポジティブ・どちらでもない・ネガティブの3択で答えてもらった。

【図2】 投稿前の投稿内容の見直し回数



【図3】 いいねした内容はポジティブか



基本的には投稿内容を事前にチェックできているようだが、全体の15%が内容の精査をせずに投稿されたものであるという問題が明らかになった。

いいねした内容がポジティブかについては、約7割がポジティブなものであったと回答した。投稿内容がいわゆる「推し語り」であるものが多かったことに起因していると思われる。

総評・考察

テキストマイニングの結果や投稿内容の全容から判断して、tAmatsubuは「校内SNS」としての新たなコミュニティの形成には成功した。内容についても、普段本校の生徒のSNSアカウント上で見かける投稿に比べ、tAmatsubu上では穏便であるものが多かった。

一方で、実際に利用されているSNSと同様に、政治的な発言や過激な批判的投稿も見られた。実際のTwitterや5ちゃんねる上で繰り返される問題発言を模しているようなものもあり、ふざけ半分で投稿している様子も見受けられた。投稿の公開範囲が「たかが校内だけである」という心理が働いたのかもしれない。

残った問題点・今後の展望

最大の問題点はtAmatsubu実施前と実施後を比べても、TwitterやInstagramの投稿内容に変化が見られなかった点である。実際のSNS上ではネガティブな投稿や不適切な情報公開をしている投稿は依然として存在している。「tAmatsubuは本物のSNSとは別物だ」という認識が生まれてしまったのではないかと推測する。この企画は問題に対して直接作用することが少なかったと思うが、環境が異なるとネガティブな投稿が少なかったことは特徴と言えるだろう。個人レベルの調査が必要になるため、完全に不適切な投稿をなくすことは困難を極める。しかし、このような結果や狙いを適切にフィードバックしていただくことでSNS利用の意識の変化を促せるようにしていきたい。